

第62期 中間期 株主通信

2025年4月1日 ▶ 2025年9月30日

証券コード : 9686

人・街・未来をまもる
東洋テック株式会社

株主の皆さんへ

株主の皆さんには、平素より格別のご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループを取り巻く環境は依然として人員不足、人件費の上昇など厳しい状況にあります。本年4月に策定した第13次中期経営計画に基づき、主力事業の強化と新たな成長分野への挑戦を着実に進めております。

当中間期におきましては、『2025大阪・関西万博』関連をはじめとする大型案件に対応しつつ、業務効率化・人材育成への投資・関連事業への参画を進め、来年1月の創業60周年の節目に向けて、次の成長ステージを見据えた取り組みを強化しております。

今後も、環境変化に柔軟かつ迅速に対応し、事業基盤の一層の強化と企業価値の向上に努めるとともに、事業基盤のさらなる強化と企業の社会的責任を果たすべく取り組んでまいります。株主の皆さんにおかれましては、引き続き当社へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



事業の概況

2025年4月に開幕しました「2025大阪・関西万博」(以下「万博」という)関連の受注が業績に大きく寄与し、東洋テックグループ各社とも好調に推移しました。また、万博以外の業務につきましても、多くの人員が万博の対応に割かれる中ではありました。地道な価格改定交渉による底上げや、イベント警備が堅調に推移したことなどにより、前中間連結会計期間比増収となりました。その結果、売上高は24,546百万円(前中間連結会計期間比8,278百万円の増収)、営業利益2,053百万円(前中間連結会計期間比1,736百万円の増益)となり、公表数値の営業利益2,103百万円を超過しました。その他、経常利益2,103百万円(前中間連結会計期間比1,763百万円の増益)、親会社株主に帰属する中間純利益1,494百万円(前中間連結会計期間比1,411百万円の増益)となりました。

東洋テックグループといたしましては、さらなる警備のDX戦略による生産性向上と、積極的な人材投資を通じて、安全・安心に貢献してまいります。

業績ハイライト

2026年3月期 中間期



通期業績見通し



セグメント情報



警備事業

売上高

19,237 百万円

セグメント利益

1,606 百万円

売上高構成比
78.4%

万博関連売上が業績に大きく寄与し、常駐警備業務が大幅増収となりました。また、機械警備業務・輸送警備業務他に関しましても堅調に推移しております。

その結果、警備事業の売上高(セグメント間の内部売上高又は振替高は除く。)は、19,237百万円(前中間連結会計期間比8,017百万円、71.5%の増収)、セグメント利益は1,606百万円(前中間連結会計期間比1,480百万円の増益)となりました。

売上高 (百万円)

中間期 通期

23,622

11,220

19,237

2025年 3月期

2026年 3月期

セグメント利益 (百万円)

中間期 通期

1,606

423

126

2025年 3月期

2026年 3月期



ビル管理事業

売上高

5,056 百万円

セグメント利益

356 百万円

売上高構成比
20.6%

前期に大口不採算先の取引方針の見直しにより、一次的な減収があつたものの、改修工事提案フローや継続的な価格改定への取り組みが定着したことで収益性は改善しました。

その結果、ビル管理事業の売上高(セグメント間の内部売上高又は振替高は除く。)は、5,056百万円(前中間連結会計期間比515百万円、11.3%の増収)、セグメント利益は356百万円(前中間連結会計期間比297百万円の増益)となりました。

売上高 (百万円)

中間期 通期

9,524

4,541

5,056

2025年 3月期

2026年 3月期

セグメント利益 (百万円)

中間期 通期

356

290

59

2025年 3月期

2026年 3月期



不動産事業

売上高

252 百万円

セグメント利益

90 百万円

売上高構成比
1.0%

不動産賃貸部門は引き続き安定的に推移しておりますものの、大口の不動産仲介案件がなかつたことから減収減益となりました。

その結果、不動産事業の売上高(セグメント間の内部売上高又は振替高は除く。)は、252百万円(前中間連結会計期間比△253百万円、50.2%の減収)、セグメント利益は90百万円(前中間連結会計期間比△55百万円の減益)となりました。

売上高 (百万円)

中間期 通期

1,777

506

252

2025年 3月期

2026年 3月期

セグメント利益 (百万円)

中間期 通期

341

146

90

2025年 3月期

2026年 3月期

目指すべき姿

警備・ビル管理を中心とした『総合生活安全企業』への進化

～筋肉質な企業体質への転換（「量」の拡大から「質」の向上へ）～

既存領域の収益性向上



- ・価格適正化
- ・生産性向上

新たな成長領域への進出



- ・成長戦略投資の実行
- ・ラストワンマイルの強みを活かしたサービス展開
- ・サステナブル・レジリエントな社会づくりのサポート

ウェル・ビーイング経営の実践



- ・人的資本経営の高度化
- ・株主還元の拡充

経営指標

●2027年度定量目標

売上高 **400** 億円EBITDA **25** 億円●成長投資枠 **100** 億円M&A **60~70** 億円不動産・エクイティ出資 **30~40** 億円

●株主還元

配当性向 **50%** 目途(DOE **3.0%** 下限)

第13次中期経営計画の詳細につきましては、IR情報サイトに掲載しております。

https://www.toyo-tec.co.jp/ir/strategy/strategy_pdf_05.pdf

配当方針・配当推移

当社は、これまで当社株式を長期的に保有頂く株主の皆さまのご期待に応えるべく、配当性向を指標とした安定的な配当を実現してまいりましたが、この度、この方針をより明確にするため、配当性向に加えて「株主資本配当率(DOE)」を指標として採用することといたしました。

第12次中計配当方針

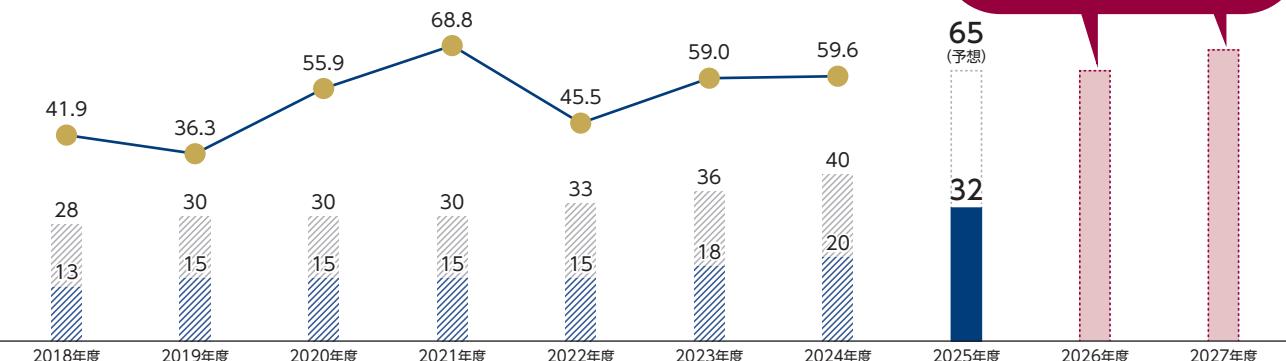
配当性向 **50%** を目途に安定配当

第13次中計配当方針

DOE **3.0%** を下限値として
配当性向 **50%** を目途に安定配当

1株当たり配当推移(実績・計画)

■ 年間配当(円) ■ 中間配当(円) ● 配当性向(%)



※2025年度以降の配当金額は、第13次中期経営計画の計数計画を前提として、DOE3%を下限とした場合の試算であります。

「2025大阪・関西万博」への取り組み

当社は、「2025大阪・関西万博」を、企業としての社会的責任を果たす絶好の機会と位置づけ、地域社会や未来世代への貢献を目指して積極的に取り組みました。

当社グループは、警備・施設管理等の面で、来場者と関係者の安全確保を支援し、円滑な運営に貢献できたものと評価しております。

万博を契機に、当社の知名度は確実に上昇しており当社グループのブランド価値向上と新たなビジネス機会の創出と、今後の統合型リゾート(IR)や他のMICE*プロジェクトにおける展開も含め、さらなる成長が期待できるものと考えております。

* Meeting「企業会議・研修」、Incentive Travel「報奨・研修旅行」、Convention「政府主催会議・学術会議・業界会議」、ExhibitionまたはEvent「展示会・見本市・イベント」



2025大阪・関西万博:当社役員および万博警備



アバター警備ロボット「ugo」を導入

人手不足は警備業界共通の喫緊の課題であり、DXを活用した対応は必須のものとなっております。

当社では警備ロボットの導入をすすめており、具体的には、本年4月、アバター警備ロボット「ugo TSシリーズ」を毎日新聞ビルの警備現場に導入致しました。施設警備の基本業務を警備員から警備ロボットに代替することができ、警備業界の人手不足解消と効率的な警備体制の構築が期待されます。

ウェル・ビーイング推進部の新設

東洋テックグループでは、経営理念「安心で快適な社会の実現に貢献する」には、従業員一人ひとりが心身ともに健康で生き生きと働くことが必要と考えております。

労働集約型の事業を主とする当社グループにとって最大の財産である『ヒト』が、最大限に力を発揮できる環境(心身の健康、働きがい、ライフワークバランス、心理的安全性など)が必要であると考えております。人的資本経営の高度化は不可欠となっております。サステナビリティ課題への積極的な取り組みを含め、従業員エンゲージメントの向上をはかる専門部署として、本年7月に「ウェル・ビーイング推進部」を新設し、グループ全体の活力増強・持続的な企業価値の向上に向けて取り組んでまいります。



東洋テックグループは安心で快適な社会の実現に貢献します

